

桐に恋して18年

「心と体にキズのつかない家づくり」

私が桐の床を本格的に作ろうと思ったのは、帝国ホテル設計者フランク・ロイド・ライト氏の自宅をシカゴ郊外に見学に行ったときでした。床は全て固い広葉樹でしたが、おばあちゃんが孫とくつろぐ編み物部屋の床だけが、針葉樹のパイン（マツ）材と案内の方が教えてくれました。踏み比べてみると、パインはオークより踏み心地が柔らかく温もりを感じました。ライト氏が形でなく素材でお母さんに思いやりを伝えたかったのだなと感じました。床に揺り椅子のパイプの丸い跡や、子供がつけたような小キズを眼にしても、日常生活に支障はなく、寝室や子供部屋の真のニーズをしっかり捉えていると感服しました。そして、「待てよ日本には柔らかくて暖かい桐があるじゃないか」と思ったのです。遠赤外線輻射効果、調湿作用、断熱効果に優れた桐の木でやってみようと、帰国してすぐ床の試作にかかりました。

戦後、日本の床は松や杉、桧のムク板貼りから化学塗料を塗った冷たく硬い床へと変わっていき、室内で靴を脱ぐ私たちの生活に「冷え」という問題をもたらしました。弊社では現在使用中の床の上に直接桐床厚12mmを張るリフォーム、また新築用には厚さ24mmの桐床を納めております。

先日、16年前に『アク抜き桐』で桐床を施工した長野県の旅館にお寄りしました。キズも有り塗装も少し剥げていましたが、16年間一度も補修すること無く、女将はこれでいいと言われました。『アク抜き桐はトゲがささらないし、キズも美観を損なわない。冬でも足の裏は桐の自然な遠赤外線であたたかいので、床暖房も要らない。何よりも欲しかった風合いと快適な居心地を授かりました』と。他にも『梅雨時に窓を開放しても、桐の床はジメジメベタベタしないサラツとして気持ちがいい』『11月でも裸足で部屋を歩ける』『滑

りにくい』『桐のクッション性が足腰に優しい』などお客様にご理解を頂きながら、多少家にキズがついても心と体にはキズがつかない家づくりを実践して参りました。

桐の木は成長が早い反面、土中からいろいろな不純物を木質導管内に吸い上げてきます。この不純物を溶出する工程『アク抜き』が、桐本来の機能を高める鍵となります。日本は雨が多いので雨ざらしでアクを抜きますが、中国の桐産地では雨が少ないため井戸水の水槽に入れて桐を沈め、真っ黒になった水が透明になるまで何度も水を入れ替えます。こうしてアク抜きがされた桐は木質内に空気層が確保され、断熱、遠赤、調湿等の効果が発揮されます。さらに菌やカビの生息に必要な糖分・養分もアクと一緒に排泄されますから、衛生的な一面も備わります。桐の良さはアク抜き無くしては語れません。桐は水に浸けるだけで人と環境に優しいエコな素材となるのです。

株式会社グリーンフラッシュユ.

代表取締役 八木隆一